

江戸期の駒込村は、現在の豊島区駒込と文京区本駒込および千駄木にまたがる地域です。高木家は、江戸期以前にこの地に移り、草分け百姓として村を興したと伝えられます。その後高麗芝の育成に成功し、江戸期には富裕層や庶民の園芸趣味が後押しとなって、農家の生業として植木屋が大いに繁昌したのです。植木屋文化は「菊入形」など庶民にも流行し明治期には興隆期を迎えます。

昭和10年に完成した「安政年代駒込富士神社周辺之図及び図説」の絵図は、江戸末（安政期）の記憶を描き留めたものとされていますが、その中に、高木嘉平治家：「農と植木屋」として、現在の東京都史跡「駒込名主屋敷」の場所や、「嘉平治さんの椎木林」など、多数の記述がなされています。また「内海家」、「清水家」など、地域の植木屋の主屋と蔵などの配置が詳細に記載されており、江戸末の地域の記憶が生き生きと描写されています。

ところが、大正12年の関東大震災により被災した植木屋がまとまって移転し大宮で盆栽村を形成したため、この地域の植木屋は徐々に幕を閉じました。高木嘉平治家は植木屋を継承しなかったものの、関東大震災と戦災をまぬがれて今日も同地に住み継がれており、まさに生きた郷土資料といえます。

今回のシンポジウムは、今日では当時の記憶が消滅しつつある、駒込地域の植木屋文化と、江戸以前から地域の生業を見守り続けてきた高木家の足跡を紐解く機会とし、また地域の未来を担う子供たちへと継承する、駒込の環境について考える契機としたいと思います。

同時開催 駒込名主屋敷の実測図面 安政年代駒込富士神社周辺之図 駒込菊まつり パネル展示



文京区立 駒込地域活動センター 案内図
文京区本駒込3-22-4 ☎ 03-3824-5801



駒込名主屋敷 文京区本駒込3-40-3 (外観のみ見学可)



会員募集 駒込環境保存会

駒込名主屋敷の保存活用について、一緒に考えませんか
駒込の未来の環境について意見交換して活動しませんか
連絡先 渡邊/ ncnk4233@yahoo.co.jp

東京メトロ南北線 「本駒込」 駅 徒歩6分
都営バス 駒込駅から「駒込富士前」下車徒歩1分
本郷三丁目から「吉祥寺」下車徒歩2分

主催 駒込環境保存会 会長 松塚 昇
後援 足利大学
神明上町会
たてもの応援団